自分を磨く，社会に生かす　日本秘書クラブ機関誌［ソシア］
May 2022　48

Socia

メッセージを大募集！
会員の皆さんからの一言メッセージ・ご感想をお待ちしております。
以下のQRコードから投稿フォームにつながります。

1…支部活動スペシャル版 **九州支部**
2…**わたしの新人時代**／交流旅行のお知らせ
4…特集 **オンラインで集まろう！**
Zoomの作法，考えてみました！――オンラインミーティングのマナー
7…**新支部長メッセージ**／趣味を楽しむ㉞・わたしの元気飯！⑱
8…お知らせ・徒然棘㊵

支部活動スペシャル版

日本秘書クラブ 30年のあゆみ

日本秘書クラブは、1984年の発足以来、さまざまな組織形態を取りながら脈々とその活動を続けてきました。今回は、これまでの機関誌と活動を見守り続けてきた元吉昭二顧問の談話などから、日本秘書クラブのあゆみを振り返ります。

実務技能検定協会が秘書検定を開始したのが1972年。それから12年後の1984年9月30日、秘書検定合格者を中心とした女性のための集まり「日本秘書クラブ」が発足しました。まだまだ合格者自体が少ない中、当初の会員は34名、会報誌の第1号は同年11月に発行されました。

発足時の大きな目的は、秘書検定合格者が集い、働く女性たちの情報交換の場、相互啓発の場とすること、ひいては「女性の社会的地位の向上」を目指すことに掲げられました。「女性の活躍」が大きな課題と叫ばれる現在ですが、当時は女性が社会で担う役割は小さかったのです。参加した女性たちは交流を深めながら自己研鑽に努め、日本秘書クラブは全国に支部を持つ団体へと成長していきました。

しかし、発足から15年が過ぎた1999年10月に日本秘書クラブは一旦解散。各支部が細々かにつながり合いながら独自の活動を行っていましたが、

秘書検定開始から12年、日本秘書クラブ設立！

2010年4月に再び全国組織となり今に至ります。

クラブ会員が各地での準1級指導、面接担当者の核となった

日本秘書クラブがその存在感を示したのは、1992年6月の秘書検定準1級試験開始に際してです。実務技能検定協会の理事長でもあった元吉昭二顧問は次のように語ります。

「準1級の開始に当たっては、全国どこでも指導が受けられること、試験が受けられることが絶対の条件になっていました。そこで法律することになったのがクラブの会員です。面接試験について、会場の手配・運営、審査員や係員の選定・手配、審査の実施・合否の決定、それらにまつわる事務の一切を各支部で行うことになりました。もちろん簡単にはいきませんでしたよ。私も、試験の実施団体として各地に赴き、模気よく説明をして回りました。担当者となった人には、服装や立ち居振る舞いはもちろん、会場ではにおいのする物を食べないなど、細かいことをずいぶん注意しました。注意したことは、今では各支部ごとに歴史が後輩に指導してくれていますね。

第1回試験の担当者は全国で120名。各支部で模擬試験を行い担当者を教育する取り組みは、今も続いています。

機関誌や支部行事、交流旅行で、会員同士のつながりが深まる

機関誌はこれまで30年の間、会員の皆さまの協力により続いてきました。内容を振り返ると、「光る女性の知的生産の技術」「働く女性の時間管理」などのキャリアアップ企画や、「プロフェッショナル会員による教養講座」などの教養企画、会員による座談会など、テーマもさまざま。会員・非会員が参場しさまざまな情報を提供し合い、遠く離れた地にいる会員同士の気持ちをつなげるために一役買っています。

各支部で開催される講座や行事、年に一回の交流旅行も、会員同士のつながりを深める一つのチャンスです。特に交流旅行は、普段は会うことのない他支部の会員と、ざっくばらんに打ち解けて話ができる数少ない機会。2014年まで毎回参加してきた元吉顧問は「HES会員や面接担当者だけでなく、一般の会員の皆さんにもぜひ参加してほしい」と話し

2000～

2007～

徒然棘 40

とはいえ

言葉は生きている。

古の人々が聞いたら「あな，わりなし（まぁ，ひどい）」とでも言うのではないかと思えるほど，今の私が使う言葉は変わり果てているのだが，そんな私でも，最近の言葉に「あな」と言いたくなるものがあるのである。

「とても」「めちゃくちゃ」「素晴らしい」

「とても」はもともと「とても食えたものじゃない」などと，否定表現を伴ってどうにもならないという意味で使われていた。「めちゃくちゃ」は「まったく筋が通らない」ことだったものが，今では「めちゃくちゃうれしい」などとよいことにも使う。「すばらしい」は「すばまる」が語源で肩身が狭い，みすぼらしい，という意味だったらしい。このあたりまでは「へえ，そうなの?まぁ言葉は生きているからね」と現代人を気取っていられる。

[illegible]のみにするのではなく[illegible]は適切かどうかを考え[illegible]Zoomの勉強を通じ[illegible]

迎え，「クウデイの組織改革」というテーマでお話しいただきました。

会場では久しぶりの再会を笑顔で喜び合いました。一方，オンラインは気軽に参加ができるため九州各地から多くの方にご参加いただきました。

画面越しであっても会員が一堂に会して時[illegible]を共有できたことは，ハイブリッドならではの利[illegible]今後のイベントもぜひハイブリッドで開催していき[illegible]と考えています。

3代目として積極的に組織改革を行ってきた柳瀬さん。会社の古い体質を変えるため，企業理念の明確化やコーチング・ITの活用などを行ってきました。「トップの意[illegible]いける」と柳瀬さん。

[illegible]情報をアップデートする意識など，仕事の心構えに[illegible]者からは「DX（デジタルトランスフォーメーション）[illegible]の大切さを感じた」などの感想が寄せられました。

[illegible]なことを学びました!
[illegible]瀬さんの講演から一部抜粋）

[illegible]識改革は問いかけから
[illegible]頭は，聞かれてから考える仕組みになっている。社[illegible]意識改革にはこちらから「問いかけること」が大切

[illegible]ータ分析をコミュニケーションツールに
[illegible]や在庫などの客観的なデータを経営に生かすこと[illegible]社員との信頼関係を強化。納得感を持って働いても[illegible]るようになった

[illegible]ずは自分が動く
[illegible]を促進するため，自らプログラミングを学んだ。その[illegible]で人材育成を行い，システムの内製化に成功した

スクリーンを使って会場・オンラインの参加者全員で記念撮影。中央左が講師の柳瀬隆志さん

わたしの元気飯！ 第18

会員の皆さまが元気の源としているご飯やお菓子をご紹介し[illegible]

回転寿司根室花まるのお寿司

掛[illegible]

仕事を頑張った自分のごほうびに!

私の元気飯は回転寿司根室花まるのお寿司です。[illegible]の名の通り本土最東端の街・根室に本店を構える回転[illegible]ン。北海道の新鮮な海の幸をたっぷり味わうことがで[illegible]室育ちの私にとっては，大晦日や誕生日のごちそう[illegible]まるのお寿司」。家族で食卓を囲みおいしいお寿司を[illegible]自然とみんなが笑顔になりました。

今でも家族が恋しくなるとふるさとの味を求めて[illegible]ン店に通い，元気をもらっています。札幌のお店

支部活動スペシャル版

九州支部 2/23

[illegible]紹一顧問からのメッセージ

[illegible]活動を見守ってきた[illegible]書クラブも発足して[illegible]たちました。その間，社会の状況[illegible]変わり，人々の意識も変わり続[illegible]す。中でもマナー意識の低下は[illegible]のがあるように思います。[illegible]うな時代であるからこそ，秘書[illegible]はじめとするビジネス系検定で[illegible]会員の皆さんには，「やはり他の[illegible]うな」と周囲からお手本にされ[illegible]人一倍の感度でマナーや気配[illegible]していただきたいと思います。[illegible]本年5月をもって実務技能検定[illegible]事長を退任しましたが，会員の[illegible]には，ぜひ今後も怠ることなく，マ[illegible]配りを教える団体としての自覚[illegible]磨き続けてくださるよう期待し[illegible]。

[illegible]れ先しんの特集アンケート